



佐々木 英徳 議員



災害対応について

問 新総合防災情報システムは、災害対応機関が迅速かつ的確に情報を共有できるよう設計された防災デジタルプラットフォームである。災害時における情報収集、分析の効率化により、的確な判断と対応が可能となり、被害の軽減や復旧の迅速化が期待される。市長の考えを伺う。

答（市長） 市では円滑に情報共有するためDX化を進めており、

本年度からGoogleオフィスソフトを使用した情報共有システムを整備し、訓練している。実際の災害対応では、多方面から入る情報を整理・集約する点で、今ある新たな機能を活用することが最重要である。新総合防災情報システムについても、国や関係機関と連携しており、情報共有の重要なツールのため、システムの習熟に努めていきたい。

学校生活について

問 ^{はつかいちし}廿日市市では、近年の猛暑を受け、中学生による子ども議会の提案により、2025年までに全小中学校へ冷水機を設置することとなった。特に非接触のボトル給水型冷水機は、熱中症対策に加え、感染症防止や環境教

育にも効果的だと考えられる。導入への考えを伺う。

答（教育部長） 各学校で現在、熱中症対策として、水筒のほかにペットボトルの持参を可能にしている。冷水機の設置は、維持管理費用や日常的な保守点検作業、特に使用についての衛生面などの課題がある。議員紹介の廿日市市のように、非接触型のボトル給水型冷水機を設置している他自治体の導入例も参考にし、協議していきたい。



羈見 久美子 議員



朝の小1の壁について

問 朝の小1の壁とは、保育園よりも小学校の登校時間が遅いため、働く親が子どもの朝の居場所に困るなど支障が出ることをいう。豊島区や豊中市では、民間企業などに委託し、見守りサービスを開始した。相模原市では、小学生の子どもがいる市職員に対して子育て部分休暇を導入している。①保護者からの問い合わせはあるのか。②事例に対しての所見と問題解消に向

けての課題について伺う。

答（市長） ②相模原市のような制度導入は、朝の小1の壁解消だけでなく、仕事と家庭の両立をサポートできると考える。導入に向けた検討をしていきたい。

答（教育部長） ①1校のみあったと把握している。②豊島区や豊中市の事例は、自治体主導で始業前から児童を預かり、保護者負担を軽減している。課題は、早朝の預かり業務を誰が行うのか、学校以外で預かる場合、場所や安全性確保等が挙げられる。



5歳児健診について

問 5歳児健診は、子どもの特性を早期発見し適切な支援、生活習慣・育児などの指導を行い健康保持、増進を図ることである。導入に対しての所見と課題について伺う。

答（福祉部長） 子どもの発達の特性に応じた支援につなげられる点で意義があるが、国が必須とする医師の配置が困難であり、実施は難しい状況にある。補完対策として、保健師等による5歳児スマイル親子相談会や、児童発達支援センターのスタッフによる巡回相談の実施などにより、5歳児の発達支援の充実に努めている。